

ニッポン

ドクター和の

# 臨終回卷



長尾和宏（ながお・かずひろ） 医学博士。東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。近著「薬のやめどき」「痛くない死に方」はいずれもベストセラー。関西国際大学客員教授。

3月7日に記者会見を開いた

北島さん。いつもの元気溌剌なオーラはなく、憔悴しきった表

情で声を絞り出す一人の父親の姿でした。

死因は心不全ということで、心臓にトラブルがあったのかと

いう記者の質問に対しても「全く感じなかつた。彼はもし、それだとしたら、俺に隠してい

## 46 大野誠



実は、東京都内での在宅での死亡は6割が警察の検視が入ります。家族に看取られずに死滅し、時間が経過すると、事件性の有無調べなければならぬないので

いた。昔から思いのままに一人でやるのが好きでしたから」と答えていました。

大野さんの死に関してはいくつかのメディアからコメントを求められました。昨年末に出版した拙著『男の孤独死』（ブックマン社）が話題になっているからでしょう。

とはいうものの、死ぬときは誰しも一人。どんなに仲のいい人がいても、一緒に逝けません。ですから「孤独死はかわいそう」と決めつけるのも、ちょっと違うと思います。最期まで自由に好きなことをやって突然死した結果が孤独死ともいえます。私自身も孤独死しそうな予感がしています。

大野さんは、未発表の楽曲を多く残していました。『素晴らしいセンスの持ち主。息子であって、よき私の相方でもあります。私自身も孤独死しそうな予感がしています。

歌手、北島三郎さんの次男で、作詞・作曲の大野誠さんが、東京都内の自宅で亡くなりました。兄によつて発見されたのは3月3日のこと。死因は心不全。51歳の若さでした。一人暮らしのため死後8日が経過しているといいます。

「大事な、大好きな、かわいい、わが子が先に旅立つてしまつたという…そんな辛さがあります」

# 夢追つた男の孤独死